

法政大学校友連合会
茂原支部会報
第6号

発行所 法政大学校友連合会茂原支部
発行人 渡邊光夫
〒297-0016 茂原市木崎118-27
TEL 0475-22-5215

もばら法政

六大学野球優勝

春の六大学リーグ戦において法政大学野球部が六期ぶりの優勝を成し遂げました。そして、六大学の代表として臨んだ全日本大学野球選手権大会においても、見事優勝（十四年ぶり八回目）しました。



校友連合会の現状と茂原支部

校友連合会について、よくわからないという方もいると思いますので、その現状についてお知らせいたします。そして、校友連合会並びに茂原支部に対してご理解をいただきます、ぜひ活動に参加されまき、ぜひ案内申し上げます。法政大学の卒業生組織として「法政大学校友連合会」があります。この連合会傘下には、地域支部、学部同窓会、各種団体があります。地域支部とは、県あるいは市区を単位とした各地域ごとの集まりであり、茂原支部もその一つです。全国各地の卒業生が自発的に組織したものですので、集合単位はバラバラで県全域を一支部としていくところもあれば、一県にいくつもの支部のあるところもあります。ちなみに千葉県では、千葉中央支部、松戸支部があり、茂原支部と三つの地域支部があります。しかし、千葉、松戸、茂原以外の地域の卒業生には入会すべき支部がないのが現状です。学部同窓会は、文字通り各

学部単位の同窓会であり、学部ほか六学部にあります。また、各種団体とは企業単位の集まりであったり同じサークルの卒業生による集まりであったりであります。以上が校友連合会の構成団体であります。他に校友連合会に加盟していない団体も数多くあると思われまます。法政の校風が自主性を重んずるからでありましようか、各種卒業生の集まりはそれぞれの自発的な組織となつていきますので、統一性がなく外部からは分かりにくいものがあります。結果的に、一般の卒業生には入りにくいところがあるのも事実であります。次に財政面で見ますと、校友連合会の収入は主に会員より集められた会費であります。しかし、会費を納めているのは、四十万卒業生の内六千名しかおらず、常に財源不足に悩んでいます。しかし、これは決して卒業生の責任ではないと思ひます。大学を卒業して社会に出てから毎年三千円の会費を納めるとい

(次頁へつづく)

われてもなかなか出来るものではない。法政の卒業生であれば、全ての人が、大学及び同窓会との関わりを無償で得られなければならぬと思いません。その中で、余裕のある人には寄付をいただくというのがあるべき姿だと思います。他大学の例を見ますと、多くの大学で、在学時に同窓会費を一括して大学が代理徴収する方法がとられています。これであればスムーズに、安定的に会費の確保が出来ます。

以上の組織面、財政面の課題を解決すべく校友連合会では、今、その改革に取り組んでいます。組織面では、全国各県に一つの県支部を設け、その県内の全ての法政卒業生が参加できるようにします。財政面では、在学時に校友連合会費を一括徴収出来るよう大学と交渉中であり近い将来可能となる見込みです。

組織的に、財政的に安定した校友連合会をつくり本来の目的である「校友の団結、母校の校格向上」の為に活動が出来るよう期待したいと思います。

茂原支部は長生郡市内の法政大卒業生を会員としています。

- 主な活動は
- ① 年一回の総会開催
 - ② 支部会報の発行
 - ③ 役員会の開催
 - ④ 校友連合会活動への参加であります。
- 今後は六大学野球やラグビーの応援ツアー等も計画してみたいと思います。
- 本会報といっしょに総会の案内通知も同封しますので、ぜひ参加願います。酒を酌み交わし、法政の思い出を語り、皆で肩を組んで校歌を歌おうではありませんか。また、今後は、長生郡市以外の近隣地区卒業生の方もお誘いしてみたいと思います。



体を動かして元気に 野原恒夫

平成十年二月二十二日、

六人で歩こう会をスタートして、今月(二十一年七月四日)で百十一回に、登録メンバーも常に六十余名を維持し、毎月第二日曜日を定例として10km前後をウォークするように年齢差が(60〜83歳)あることを念頭においてユツクリ・ノンビリとみちくさをしながら散策しています。

百回を超えて百一回のとき「二十年一月川崎大師」への初詣のとき脳梗塞で参加できなくなり、メンバーに迷惑をかけることとなり、それから復活する同年十月まで八ヶ月空けてしまいました。

過信は良くないことと思いませんか、反省しきりです。年を重ねるにつれ自分の体を知ることは必然性、動くことに下半身の筋肉を使うこと、歩くことは全身運動です。中高年になると急激に落ちる太ももの筋肉も歩くことで落ちない努力をしたいもので

す。

今は体力維持の目的で月一回のウォーキングと三〜四回のゴルフで体を使う努力をしています。後期高齢者でなく輝気高齢者でありたいと思っています。

(昭和三十五年・工卒)



もばら七タ

石川啄木の将棋 渡辺光夫

千葉県森田知事は「剣道二段だそう。よくよく聞くと正式でなく詐称だと後で分った。実は私は日本将棋連盟より、実力はともかく正式なアマ、五段の免許状（免許状ではない）を昭和五十三年に頂いてある。何事につけても人と争う（競争する）ことを好まない。今ではほとんど指さない。TV、新聞、雑誌の将棋は見る。「国際啄木学会」会員で、啄木の研究をライフワークとしている。以下啄木文学に表われた彼の将棋を紹介する。

将棋の愛好家としてよく知られている文豪に、菊池寛、井伏鱒二らがいるが、石川啄木が将棋を指したことはあまり知られていない。彼の遺した日記、書簡、随筆等に将棋に関するものが多数記述されている。最初は明治三十七年（十九歳）「佐藤君来りて将棋を遊ぶ」四十年、浜民村で「役場の岸本氏等を初め朝より客たえず。将棋を闘はし、加留多を取り夜は鶏鳴をきいて眠りぬ」。函館時代に「和賀君と将棋をやつて大勝利」。四十一年東京へ出

て「十七日より今日まで、毎日金田一君、碧海君と共に将棋を戦はせり」。十九日は将棋に暮す。「金田一君と将棋を戦はして勝つ」。本屋の来るのを待つ間のたいくつを将棋でまぎらした。三番やつて予が負けた。「金田一君と三人でカルタ。岩動君帰つて将棋、二度やつて引き分けたが、予の方がつよかつた」。本を古本屋へ預けて八十銭を得五分芯のランプと将棋と煙草を買つた」。

四十四年結核で大病院へ入院し、「同室の二人の若い人達と話をした。夜は若い方と将棋をさした」。また、書簡の中にも明治三十九年浜民村で「村人と将棋を戦はしては這裡わづかに心の飢餓を忘れんとす」と記している。

東京で、明治四十一年には八月になつてから僕の趣味は数回変わった。先ず浄瑠璃の妙味を知つた。その次は将棋・並木君が来たらモンデやるよ、金田一君と二人でやつて上手になつたこの頃・・・」

啄木の将棋の戦法については

彼の作品にはあまりない。が、「無題」の中に「先方が高飛車か何かで以つて王手と来るてえと、此方も否応なしに金の相車もしなければならず、ええ面倒臭いと言ふんで、ピタリと桂馬の跨ぎで以つて、飛車取王手の手も出るんです」と記している。

啄木の棋力は何級位だったのかは分らないが、このように将棋が好きだった。

(昭和三十二年・経卒)



岩手山

損害保険ジャパン代理店
損保ジャパンひまわり生命保険代理店

中村保険サービス

中村良逸 (昭和44年経卒)

茂原市高師392
TEL 0475-22-2853

うなぎ 天ぷら 仕出し一般

大和屋食堂

大和久俊雄 (昭和43年経卒)

茂原市茂原531 (一番街中央)
TEL 0475-22-2619

幸福とは人格である

佐久間武 (昭和39年・法卒)

表題は、法政大学文学部哲学科主任教授であった三木清教授の著名な著書「人生論ノート」の中で、「幸福について」論じられている文章の一行である。

はじめてこの一行を目にした時は驚いた。なぜ幸福と人格がイコールなのかと。解らない。びっくりした。何故なのか。それ以外の記憶は現在残っていない。

数年して、同じ本を読み返す機会があった。この一行の後に、幸福と人格がイコールであることを具体的に説明してあった。一回目に、その部分を確かに読んだはずだが理解できず、解らないままで終わってしまったので記憶に残っていなかったのである。

具体的に説明している文章は、

「機嫌が良いこと、丁寧なこと、親切なこと、寛大なこと、等々、幸福はつねに外に現れる。歌わぬ詩人というものは真の詩人ではない如く、単に内面的であるというような幸福は真の幸福ではないであろう。幸福は表現的なものである。鳥の歌うが如くおのずから外に現れて他の人を幸福にするものが真の幸福である」

実は、この文章の前のページに次の2行が書かれている。

「人格は地の子らの最高の幸福であるというゲーテの言葉ほど、幸福について完全な定義はない。幸福になるということは人格になることである」

資産、収入、身長、学歴、地位、人種等、幸福の条件について議論している人達がいました。条件を満たした人だけが幸福ならば、幸福になれない人達が生じます。

しかし、人格は形成されるものですから、条件を必要としません。人間、誰でも自覚や努力で立派な人格を形成できるでしょう。

ところで、自治会の役員になりいろいろと活動しました。役員の活動範囲は、当然地区の自治活動ですが、神社とお寺に関する活動も入っています。お寺の活動を通して、お経に関心を持ち、生まれて初めて大乘仏教の真髄といわれる「般若心経」とお経の中の王様と言われている「法華経」を読みました。

お経の中に、悟りに達する為には、波羅蜜多行（はらみつたぎょう）という六つの修行をすること、煩惱を滅する為には、八正道（はっしょうどう）という八つの正しい人生の生き方をすることが書かれています。

「波羅蜜多行」とは、人に施しをすること、自分を戒めるおきてを守ること、人から辱めを受けたり冷たくされてもじっと堪えて辛抱すること、毎日の仕事を一生懸命励むこと、いつも心を落ち着けること、道理にかなった知恵を働かせることです。

「八正道」とは、正しいものの見方をすること、正しいものの考え方をすること、正しいものの言い方をすること、正しい行いをすること、正しい生活をする事、正しく努め励むこと、正しい信念を持つこと、正しく心を統一することです。

お釈迦様の教えの波羅蜜多行と八正道に励めば、立派な人格が形成されるでしょう。

お釈迦様の教えとゲーテの定義が同じように思われます。

私の勤務する学校では

今井富雄

私は、四月より五年ぶりに小学校の校長を拝命した。

毎日、子どもたちの登校の様子を見守ることから一日が始まる。とりわけ信号機のない交差点の横断には、通勤時間帯と重なるため、万全を期さなければならぬと

考えている。雨の日は、特に緊張感を持って交差点に立っている。指導に立つある交差点脇の畑には、立ち葵の花が今を盛りと咲き誇っていて、その花々は日ごとに花茎の天頂へと移動していく。

今から二、三年前であったろうか。「立ち葵の花が、天辺まで咲くと梅雨明けですよ。」と語ったあるテレビ局の氣象予報士の言葉思い出す。それ以来であるが、私は芙蓉の花を見るたびに「・・・となると、後数日で梅雨明けかな。」などと梅雨明けの日を予測するようになった。

数日前のことである。登校してくる子どもたちに、この花が立ち葵であることと、この花が『梅雨明けの日を教えてください』と、知ったかぶりを披露したのである。よくよく

考えたなら、その日は、梅雨入り宣言から間もない日であった。何を期待するでもないが、何故かわくわく感を抱かせる立ち葵の花である。

私の勤務する小学校は、白潟小学校である。九十九里浜の中央に位置し、海とテニスと温泉の町である。また、玉葱や落花生の栽培も、県下はもとより全国にもその名を馳せている特産物である。本校は、その玉葱を教材とした食育の指導にも取り組んでいる。

無償で貸与いただいた三五〇平方メートル程の畑に、冬場は玉葱、玉葱収穫後は落花生を栽培している。今年度は、学区内にお住まいの千葉県指導農業士さんや外部指導者として招き、白子町の玉葱農家や落花生農家の栽培と同じ方法で栽培を行おうと考えている。いわゆる本物の白子玉葱、白子産の落花生栽培を目指している。

五月下旬に（天候や学校行事の都合で遅れてこの日を迎えたのだが）玉葱の収穫を終え、落花生の播種を行った。子どもたちは、楽しく大切に育てた玉葱を丁寧に掘上げていった。ちょうどこの日、テレビ朝日で放映されている番組「テキスト」のおかずのクッキング記事制作のための取材がこの畑であった。その様子は、七月下旬頃発行のテキストで紹介される。是非読んでいただきたい。

収穫した玉葱は、児童の家庭に持ち帰り、料理して家族でおいしさを味わってもらったが、学校でも「親子クッキング」ならぬ家庭教育学級を開き、玉葱を食材とした料理教室を町の管理栄養士さんや食生活改善協議会の方々の指導のもとに実施した。この会は、親子のふれあいの場であるとともに、食事や食材について考える場でもあり、食育推進には絶好の機会と考えている。玉葱嫌いの児童も、自ら栽培した玉葱であると思議なことに、口に運びその甘さに舌鼓を打つ姿が見られた。

本校の畑には「日本一の野菜を作ろう」という看板が掲げられている。そして、本校教職員と指導農業士さんをはじめ教育支援ボランティアの方々の協力で、学校園の栽培管理

・運営は軌道に乗りつつある。実にうれしいことである。この畑は、小学校東側の交差点を、海岸方面に向かつて三百メートルほど先にある大きな看板が目印である。こちら是非ご覧いただきたい。子どもたちにはまだ知らせていないが、ジャンボ南瓜を食用の南瓜とともに植えてみた。夏休み明けには、他の南瓜と違った育ち方をしてくるので、子どもたちの反応が楽しみである。まさに「ジャンボな驚き」を味わって欲しいと思っている。

おしまいに、学校で取り組む「食育」について、少し述べてみる。今の子どもたちの食生活は、栄養の偏り、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加、また過度の痩身傾向など、食に起因する健康問題（次頁へつづく）

題が生じている。食育は、家庭で行うことが基本だが、学校でも取り組まなくてはならない状況である。私の学校では、「好き嫌いをなく、いろいろな食べ物をバランス良く食べる」ことができる子どもに育ってほしいと願っている。そのため、給食の完食調べを行ったり、食材の生産地を給食放送で知らせたりして、食事や食材に対する興味や関心、また栄養のバランスを考えて食べる習慣などを養っている。これらは、健康の大切さを実感する心や食を通して培う豊かな心を育むことにつながっていると考えている。

この原稿をお読みいただく頃、きつと私の勤務する学校の「日本の野菜を作ろう」の畑には、黄色の花が随所に見られる頃ではないかと思う。あるいは、落花生も大きく生長し、子どもたちと除草作業に汗を流し、野菜作りの苦労の一端を体験している頃かもしれない。

(昭和五十一年・法卒)

一粒の種

平川忠勝

私は、自宅の裏庭に家庭菜園を作っております。もちろん種を買ってきて、トマト、キュウリ、ナスを育てています。蒔いたときは本当に出来るのかと心配になりますが、芽が出てきたときは感激します。

テレビ番組で農家の人が「ピニールハウスに入るなり「皆おはよう」と声をかけるんだ」と聞いて、私は茂原市に住んでから食べた種を植えていた数ヶ月したら偶然にも芽が出てきて地面に植えてから毎日、仕事に行くときに「早く大きくなつてね」と言葉をかけていました。約十年経つたころ色々な事があり、伐つてしまいましたが、そのときミカンの木は悲痛な声を発したのを聞いたのは私の空耳だったのではありませんか、それ以来植えた木は伐らない事にしています。野菜に対して、朝晩声をかけるようにしています。農家の人たちは広い耕地でたくさん

感じています。愛情を持って育てているのですね、私はただ家庭菜園で作っています。すべて愛情を持って育てていければ作物も気持ちわかってくれる、大きな実をつけてくれると思います。

今色々な事件が起きていますが、特に家庭間の問題で殺人事件とか、子どもが親を、親が子供を殺してしまうとか、殺伐した事件が報じられる気持で毎日挨拶をして声をかけ、何か問題があれば家庭で、それが出来なければ社会で問題を解決していれば、このような事件は起きないのでは、ないかと思っています。生まれてからは皆純粋な気持ちでいます。大きくなり、心が純粋のままです。大人は責任ではないでしょうか。

人間にも、動物にも、作物にも、すべてのものに、愛情をかけていけば、いつか自分

にも、返ってくるという言葉も聞いたことがあります。一粒の種と題して書きましたが、私にも子供がいます。健康やかに育つてくれることを願っています。今年も作物が愛情を持って育つことを願っています。

(平成五年・経卒)



君は神宮を見たか？

成嶋まさる

神宮と聞いて香取神宮を思い浮かべる人は少ないだろう。「おれは、鹿島神宮を真っ先に思いうかべるぜ」という人は、茨城県人か、へそ曲がりでしょう。この茂原法政会報を読んでいる人であれば、神宮と言え、もちろん明治神宮でなく、ましてや神宮絵画館ではなく、神宮球場を連想するはずである。

私は、茂原の田舎育ちなので、大学入学までは野球観戦は、ほとんどなく一回だけヤクルト対阪神戦を神宮球場まで見に行った記憶がある。

当時は、茂原から東京まで電車で二時間もかかり、野球観戦も大変であった。このときは、往年の外国人スラッガーアルトマンがまだ阪神にいたころなような気がする。田舎育ちの高校生が、浪人してやっと法政に入ったら、大学野球でも見に行こうかという話にのり、クラスやサークルの友人たちと何回か神宮球場へ見に行った。私が入学した年に、江川がちょうど卒業し、現役で入学していたら見れたのにと、損したような気分にな

ったのを覚えている。最初のうちは、学生席で応援していたが、何回か行くと、外野席でボーと見ていることが多くなった。このころの外野席は、既に芝生ではなく、コンピニのコンクリート製の車止めみたいな席だったと思う。友人は煙草を吸い、私はビールを飲みながら、なんとなく拍手をしような記憶がある。

既に三〇年以上の前の話で、当時のビールの値段は覚えていないが、よくお金があったもんだと思う。今回、原稿を書くと、えらい方からご指示があり、なにもネタがないと書けないので、神宮球場に行ってみた。当日は、ヤクルト対楽天をやっていた。ヤクルト対楽天と云っても交流戦ではなく、二軍戦である。二軍戦でもお金をとるとは、さすがプロ野球。既に六回の裏まで進んでおり、急いで買おうと思つたら、売りがちよつと待てと言

二アウトになると、以降の入場がただになること。さすが二軍戦。五分ぐらいまって、ただで入場すると、以外にも観客が二〇〇名程度いる。しかもヤクルトファンだけでなく、楽天ファンも一〇〇名程度いる。なかなかプロ野球も人気があるもんだ。ひさしぶりの神宮球場。外野が広くなり、人工芝になり、スコアボードも電光掲示板になっている。外野席もちゃんとした椅子になっている。しかも禁煙だ。大学野球も早稲田の斉藤投手のおかげで、すこしはもりあがっているのだろうか？

今年の法政野球部は、全日本大学野球選手権で優勝したはずだが、テレビではほとんど取り上げられなかった。やはり、プロ野球の人気には勝てないようだ。みなさんも、お時間があれば、たまには神宮に行つて、母校を応援して、大学野球を盛り上げてみてはいかがでしょう？

私？ 私はロッテファンなもので。この日も、神宮球場を後にして、東京ドームに巨人対ロッテの交流戦を見に行きました。（結果は、ロッテの完敗でした）

（昭和五十七年・法卒）

次頁へ成嶋氏撮影の写真があります

測量設計全般・土地建物登記

株式会社三陽測量設計

古山弘（昭和49年工卒）

長生郡睦沢町小滝 475-1
TEL 0475-44-1869

広告募集

1 枠三千元です。ぜひご協力を
申し込みは8面の《連絡先》古山まで



信濃町歩道橋から
(ビルが大きい)



神宮球場試合風景
写真は成嶋まさる氏の撮影です



神宮絵画館
(バックに新宿高層ビルの
てっぺんが見えます)



神宮球場
(昔のイメージのまま?)

霧ヶ峰(長野県)の
日光キズゲです
(七月十一日撮影)



残暑お見舞い
申し上げます

昨年来的な経済危機の中、衆議院選挙が行われております。当り前のことですが、日本のリーダーとしてふさわしい人を選びたいものです。まだまだ残暑きびしい日が続きます。校友の皆様におかれましては健康に留意しご活躍されますよう祈念いたします。

(古山)

編集後記

支部に対するご意見・ご要望等
があれば下記までご連絡下さい

連絡先

299-4415 睦沢町小滝 475-1
(株)三陽測量設計内 古山弘
TEL 0475-44-1869
FAX 0475-44-1959
Eメール sanyou@chiba.email.ne.jp